

新旧会長挨拶

未来を構想すること—ますます重要に

前会長 山本 卓朗



新型コロナが席卷する最中にもかかわらず、役員の一斉交代をお願いし、林康雄さんを会長とする新体制を発足させることが出来ました。まずは今まで絶大なるご協力を賜った理事さんはじめ関係各位に心からの御礼を申し上げます。特に運営マネジメントの全てを担って頂いた前事務局長の土井さんに心から感謝しております。そして林新会長さんはじめご参画頂きました新理事の皆様には、これからのご指導を切にお願い申し上げる次第です。

未来構想 PF は民営化後採用の社員と国鉄時代の調査計画技術者とをつなぐこと、そして国鉄時代からお付き合いのある諸官庁の仲間との交流が目的でした。しかし活動はささやかかつ試行錯誤でのスタートでした。改めて振り返ってみますと、二つのキーワード、「ワークショップ研修」と「将来構想ワーキング」が思い浮かびます。

私が就職してからの 10 年は、高度成長の真ただ中で、人手不足解消に向けて、仕事の効率化が待ったなしの状態でした。外注化、マニュアル化、業者の責任施工体制、積算のコンピューターシステム化と仕事環境が激変していきました。新入社員は最初からマニュアル付きで仕事を与えられ、先輩の技術向上の要であった直轄測量や直轄設計が次第に消えていきました。当然ながら技術継承の必要性が叫ばれ、直轄設計や測量の研修制度そして停車場配線講座などで汗をかいたことが、ワークショップ研修の下地となったと思っています。

将来構想ワーキングの下地となったのは、国鉄工事事務局調査課時代のビジョンづくりでした。また、未来構想 PF 設立以前のことで、矢島隆さんたちと非公式に品川ワーキングに取り組んだことがあり、その成果が今日の品川開発に繋がっているのも下地の一つです。

さて“未来構想 PF の未来”についてです。配慮すべき二つの大きなインパクトがあります。ここ数年デジタル技術による社会の変革の動きが顕著です。とくにあらゆるモノをインターネットでつなぐ IoT はその基本といわれますが、未来構想 PF のこれからの仕組みにもしっかりと組み込む必要があります。

そしてもうひとつの変革インパクトは新型コロナです。昨年来の混迷はどうして起こるのか、その解決策はなにか、なぜその解決策が取れないのか・・・一見我々の活動と無関係に見えますが、コロナ対策をみていると、日本という国の基本的な弱点を露呈していると感じます。そういう意味で、我々の将来ビジョンにも多大な影響を与える出来事です。いつか番外テーマとして、杯片手に語り合いたいと思っています。

未来構想 PF 会長就任挨拶

新会長 林 康雄



この度、2021年4月13日に開催された一般社団法人未来のまち・交通・鉄道の将来を構想するプラットフォーム（以下未来構想PFと略称）の第11回定時総会において山本前会長の後任として新会長に就任した林でございます。

私は1952年(昭和27年)生まれで1975年に日本国有鉄道に就職し、1987年にJR東日本に移籍、2013年から現在の鉄建建設に勤務しております。就職後46年間で鉄道インフラの建設・保守を担当してきました。趣味は登山とゴルフです。

前会長の山本様は国鉄時代からの大先輩で、卓越した先見力と構想力をお持ちで常に我々のリーダーとして様々な難局を切り開いてこられた方であります。この未来構想PFは10年前に山本前会長が立ち上げたもので、その後任というのは大変荷が重いのですが、精一杯努めて参りますので何卒宜しくお願い致します。

ところで現下の日本の社会情勢は、コロナ禍における緊急事態宣言やテレワーク、商業、飲食業の営業自粛等の人流抑制施策のため、鉄道や航空等旅客運輸事業者や、ホテル、旅館等の観光業者そして飲食業者などが大変なダメージを受けております。いずれコロナワクチン接種の進展によりコロナ騒ぎも沈静化するものと思われませんが、全くなくなるわけではなく、長い付き合いが続くものと思います。

今後の日本の未来を展望したとき、人口減少・少子高齢化社会、気候変動・災害の激甚化、SDGs・ゼロエミッション、ICT/DXの推進、働き方改革・ワーケーションなどの社会的な課題に加えて、最も深刻な影響を与えるであろうポストコロナ対応など、これまでに例を見ない極めて大きな時代の転換点に立っているものと思われます。

未来構想PFは若手鉄道技術者の技術継承・育成と、産官学のメンバーによるインフォーマルな活動・交流を通じて未来のまちを構想しようという目的のもと、2010年12月に設立し、これまでワークショップ形式の研修や調査研究、講演会、見学会など様々な活動を行ってきました。しかし、コロナ禍をはじめ様々な大きな変革が押し寄せてくる中であって、未来のまち・交通・鉄道がどのような形で存在するのか、どのような役割を期待されているのかなど、今こそ構想力を膨らませてあるべき姿を議論し描いていく必要があります。

特に日本の大都市はTOD（Transit Oriented Development）により発展形成してきた経緯があり、今後のまちと交通のあり方に大きな変化が生ずるものと推察されます。一方、地方都市においては人口減少化においてコンパクトシティー化は不可避なものとして、どのようにまちと交通の再生を図っていくのか、やはり大きな問題であります。

このような状況にあって、未来構想PFとしてやるべきことは沢山あり、着実に一つ一つ検討を進めていきたいと考えています。

このような、私としてはコロナ禍での難しい船出となりましたが、関係の皆様におかれましては、なお一層のご支援のほど宜しくお願いいたします。

未来構想PF令和3年度 駅まち未来構想研修(企画)

これまで実施してきたWS研修を大きく模様替えしました。参加者個人がそれぞれ、実務の進め方に沿った手順で課題をまとめる方式から、全員で一つのテーマを検討し1年かけて提案する方式としました。

1. テーマ 鉄道とまちの将来像 ～10年後の基盤創造～

2. 研修内容

(1) 環境の変化の整理(今後10年の姿について、それらの展望や相関性について整理する)

●人と都市の変化(＝日本特有の長期トレンド)

超高齢化・長寿命社会、人口減少や労働力不足、移民や外国人労働者の増加、インバウンド観光客の増加、東京一極集中・地方過疎化等

●成熟社会による価値観の変化(＝緩やかに変化)

集団から個の時代へ(働き方改革)、雇用形態の変化、SDGsへの意識の高まり(地球温暖化、エネルギー、食糧等)、高度先進医療、移動権・MaaS、ダイバーシティ化、グローバル化、ジェンダーレス社会等

●アフターコロナの人々の行動や意識の変化(＝10年先の世界が前倒し)

テレワーク、オフピーク、郊外・地方居住、二地点居住、トリップの変化(都心から郊外へ、頻度の減少)、出張の減少、ECの進展、人の移動から貨物の移動へ、旅行目的の明確化等

●上記を支えるIT技術の進化(＝今後更に急速に変化)

DX、5G、AI、ロボット、ビッグデータ、自動運転、VR/AR、4K/8K、スマートシティ等

●変わらないもの(＝必要により変えていく必要があるもの)

鉄道・道路・都市計画等の法制度・許認可制度、各省庁・自治体の財源、就学制度、建設業界等

(2) 部外関係者からの情報収集

DX、AI、ICT、スマートシティ、エネルギー、MaaS、ロジスティックス、新産業等の専門家から、その分野の今後のトレンドについてヒアリングを行い、幅広い視野を醸成する。

候補：省庁、運研・日建設計・総研等のシンクタンク、デベロッパー、JR西日本・JR九州、ライフサイエンス、物流企業、空間デザイナー、オートデスク、MONET Technologies・トヨタ等のIT/モビリティ企業等

(3) 提言

上記のような環境の変化を幅広い視点で学習し見識を深め、それによって起こる変化を想像し、10年後の鉄道や都市のあり方・あるべき姿、それに関係する各主体がどう行動すべきかについて、提言をまとめる。

(4) 期間

- ・2021年4月～1年間(毎月1～2回程度のWSを開催)
- ・部外関係者からのヒアリング4～6分野程度
- ・2021年10月頃に中間報告
- ・2022年3月に最終報告

■部外関係者からの情報収集（第1回）

講演テーマ：**After/With COVID-19 の都市はどのように変化するか**

講演者：**奥森清喜氏（株）日建設計常務取締役**

日時：2021.04.20 15:30～17:00

場所：JR 東日本コンサルタンツ 会議室

参加者：約 40 名（研修生やオンライン参加を含む）

○イントロ・・・フェーズ設定、時間軸、コロナショックによる変化、リモートで働けるワーカーは

3 割、オフィスワーカーは何处で働くか、

1. データからみる新型コロナ危機を契機とした変化
2. アフターコロナの価値観の変容
3. 分散化が進み、モザイク状の都市構造へ
4. ニューノーマル時代に重要となるパブリックスペースの在り方
 - ・都心部における複数の主体が連携し共に作る協調型パブリックスペース
 - ・マルチタスクを有する中間エリアの駅まち空間
 - ・郊外居住地の核となる駅周辺の多機能・複合化
 - ・官民連携によるモビリティハブ
5. 広義のパブリックスペース（都市アセット）活用への期待
6. 想定される都市空間変化の仮説と移動の変化
 - ・すでに起きている行動変容
 - ・都市空間変化の仮説①テレワークによる東京都市圏の都市構造を想定
 - ・都市空間変化の仮説②各駅周辺の複合型土地利用・空間利用の用途変換による目的移動の変化
 - ・都市空間変化の仮説③自宅籠り層が外出する都市空間づくりによる移動の増加
 - ・都市空間変化の仮説④モビリティサービス向上と連携した都市空間づくりによる移動の増加
7. 地方都市の可能性
 - ・今の 2 拠点生活（デュアラー）は若年層、普通の年収層
 - ・地方都市の可能性・・・大都市圏よりも Smart 化が早く進む
 - ・COVID-19 を受けたスマート化の進展
 - ・安全・安心・健康都市へ(仮説) ニューノーマル（新常態）に対応した都市のあり方

*講演終了後質疑、研修生から多くの質問があり、有意義な「部外関係者からの情報収集」であった。



横浜みなとみらいのロープウェー開業（桜木町～運河パーク）

日本初の**最新式都市型循環式ロープウェー**「YOKOHAMA AIR CABIN」、桜木町と新港地区の運河パークを結ぶ全長約 630m が 4 月 22 日に開業した。

桜木町駅は 1872 年に日本で最初の鉄道が開業した歴史あるエリアだが、その海側はこの数年で市役所庁舎と超高層ホテル、巨大なタワーマンションが建ち、大きく街の風景を変えている。隣接ビルには「JR 東日本ホテルメッツ」がオープン、日本鉄道発祥の地にちなんで、1 階に蒸気機関車が展示されている。

■横浜市は、臨海部において移動自体が楽しく感じられるような交通サービスの充実に向け、「**まちを楽しむ多彩な交通**」の提案を公募したところ、このロープウェーの提案があり採用された。

■ロープウェーの建設費は約 80 億円、**民設民営で公費負担はなく**、横浜市には道路と水域の占有料が支払われる。

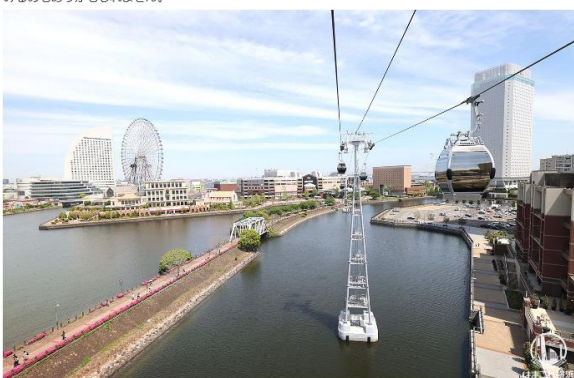
■YOKOHAMA AIR CABIN は、桜木町と新港地区の運河パークを結び、全長は約 630m で所要時間は片道約 5 分、最大高さは約 40m である。**料金は大人片道 1,000 円、往復 1,800 円**で子どもはそれぞれ半額。営業時間は通常 10 時から 22 時だが当面は 20 時まで。運賃としてはやや高めの印象だが、みなとみらいにある大観覧車「コスモクロック 21」の料金は 900 円、横浜ランドマークタワーの展望フロアは 1,000 円、路線バスは 220 円・・・今後の利用者数で評価される？

■ゴンドラは 8 人乗りで全 36 台、最新式バッテリーを搭載して日本初の冷房システムを完備。

（はまこれ横浜 2021.05.01 抜粋）



地元だからこそ馴染みの景色やスポットを普段とは違う高さ・角度から眺めて思いを馳せて楽しめたいのが素直な感想。観光で訪れる人はもちろん、雨の日や身体や足が疲れているときにちょっとした贅沢で利用してみるのもありかもしれません。



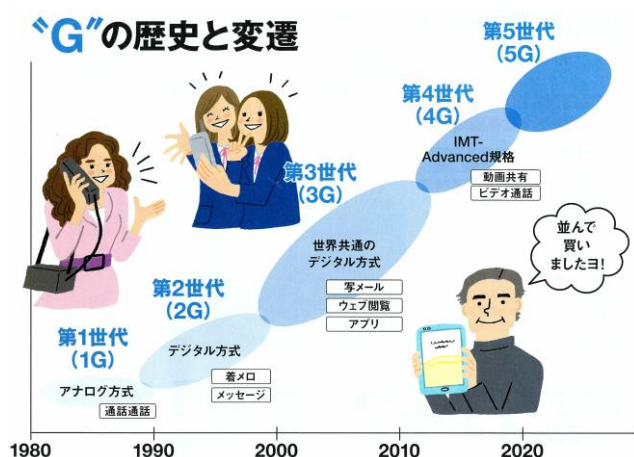
思っていた以上に長い時間を過ごせたロープウェー。それゆえに片道約5分というのはあっという間でした。



私が最も気になっていたゴンドラ1基に対して乗せる人数は、なんと嬉しいことにゴンドラ1基に対して1グループという素晴らしい対応でした。※1基最大8人

5Gで暮らしはどう変わる？

移動通信システムは、およそ10年ごとに世代交代してきた。移動通信システムの世代は、NTTが1979年に開始した世界初の商用移動サービス「1G」に始まり、2G・3G・4G、そして「5G」へと交代してきた。3Gから4Gに変わった際には「データ通信の高速化」が主な変更点であった。5Gも4Gと比較するとデータ通信の速度が大幅に高速化「**超高速大容量通信**」しているが、それ以外に「**低遅延**」や「**多数同時接続**」といった大きな特徴を持っている。この特徴を生かせば、例えば、自動運転車や信号機などが5Gでネットワークにつながることで自動的に渋滞を避けつつ安全に移動するといったことが、将来、実現可能になるといわれている。



◆超高速大容量通信

5Gの通信速度は理論値では従来の4Gの10から100倍になり、2時間の映画1本を数秒でダウンロードできる。

◆低遅延

ロボットで遠隔手術をするようになった時、通信の遅延で手術ミスが起こっては一大事。5Gなら無線通信での遅れは0.001秒以下でスムーズに操作が可能。

◆多数同時接続

通信機能を持った自動運転が一般化した未来、渋滞で人や車が密集した挙句、回線がパンクしたりしないように5Gでは1平方キロあたり100万台まで接続可能。

■エンターテインメントが変わる：視聴も応援もリアルタイム、その場にいるような臨場感

大容量高速通信によって、8K映像や360度VR映像がリアルタイムで受信可能となり、スポーツ観戦や観劇、コンサート観賞などでその場にいるような感覚を実現する。また低遅延通信を生かして、離れた場所にいる人たちが音を合わせて同時に演奏したり、オンラインゲームで大人数が同時対戦できる。

■医療が変わる：低遅延高速通信が命を救う、どこでも専門医療へアクセス

5Gを使って、救急車やドクターカーから患者の映像、エコー画像、心電図などの情報を医療機関に送り、より高度で的確な措置を行いながら搬送できる。近い将来、診察は家で受けるのが当たり前という時代が来るかもしれない。

■買い物が変わる：食材の新鮮さも遠隔チェック、配達はドローンが目の前まで

同時接続数が増えるので、スマホだけでなく生活に役立つ様々な機器に5Gが搭載されるようになる計画が進んでいる。5Gでつながったお買い物ロボットをリモート操作して、スーパーで実際の野菜の鮮度をチェックしながら購入。買ったものは、5Gで自動遠隔操作されたドローンが、マンションのベランダまでお届け！という未来が来るかもしれない。

(大和ライフネクスト：暮らしプラス：2021Vol.2 抜粋)

日本で5Gを利用しているユーザーはわずか1%未満、世界から大きく遅れを取っている

デトロイトトーマツグループが、世界の消費者における5Gの浸透度と普及状況について分析結果を明らかにした。これは、世界23カ国の国と地域にわたる計37,450人（18～75歳）を対象に実施した「Digital Consumer Trends 2020」をもとにしている。

2019年以降、各国で5Gサービスが順次提供され、日本でも2020年3月以降に通信事業者4社から5Gサービスの提供が開始された。

積極利用層（既に利用・利用可能になり次第乗り換えるの合計）は、中国が36%と最も多く、イタリア28%、フィンランド21%、ドイツ19%と続き、日本は5%とかなり低い。

所有もしくは利用しているデジタル端末の、所有／利用状況を比較すると、スマートウォッチ、電子書籍リーダー、フィットネスバンド、VR（仮想現実）ヘッドセット、スマートスピーカー、スマート家電など、全ての項目で、日本の消費者が所有している／利用できると回答した割合は各国比較で最も低かった。

（EnterpriseZin 2020.12.08 抜粋）

5Gの浸透度

		中国	イタリア	フィンランド	日本	UK	ドイツ	オーストラリア	スウェーデン
既に5Gを利用している	2020	10%	2%	7%	1%未満	2%	4%	6%	6%
私の地域で利用可能になり次第、5Gネットワークに乗り換えるだろう	2020	26%	26%	14%	4%	13%	15%	15%	12%
（上記2項目の「5G積極層」合計での）	前年比	→ 0%	↑ 9%	↑ 13%	→ -2%	→ 4%	—	↑ 7%	→ 5%
評判が良さそうなら、5Gネットワークに乗り換えるだろう	2020	20%	18%	12%	13%	10%	9%	12%	8%
	前年比	↓ -11%	↓ -8%	↓ -6%	→ 0%	↓ -6%	—	↓ -8%	↓ -7%
最終的には5Gネットワークに乗り換えるだろう	2020	32%	14%	24%	20%	33%	28%	31%	36%
	前年比	↑ 10%	↓ -4%	↓ -8%	→ 0%	→ -2%	—	→ -2%	→ -2%
5Gネットワークが標準になり他の選択肢がなければ、乗り換えるだろう	2020	11%	19%	22%	35%	22%	23%	19%	18%
	前年比	→ 2%	→ -2%	→ 2%	↑ 9%	→ 2%	—	→ 2%	→ 1%
わからない	2020	1%未満	20%	21%	27%	18%	21%	16%	19%
	前年比	→ 0%	→ 4%	→ -1%	↓ -7%	→ 1%	—	→ 1%	→ 2%

N = 中国：1,880、イタリア：1,902、フィンランド：488、日本：1,791、UK：3,841、ドイツ：1,858、オーストラリア：1,915、スウェーデン：969

注：従来型の携帯電話またはスマートフォン所有者。中国は18～50歳、それ以外は18～75歳の回答者。中国の回答者は他国より若いため、数値が強く出る傾向がある。

*1：2019年のアンケートでは、5G普及前なので「既に5Gを利用している」という項目は選択肢として入っていない。*2：ドイツは2019年アンケート未実施。

*3「1%未満」の回答には、四捨五入しても1%に満たないものが含まれる。

所有もしくは利用しているデバイス

	中国	イタリア	フィンランド	日本	UK	ドイツ	オーストラリア	スウェーデン
スマートウォッチ	26%	16%	16%	4%	13%	13%	17%	13%
電子書籍リーダー	22%	25%	11%	3%	28%	24%	14%	11%
フィットネスバンド	37%	18%	6%	3%	22%	17%	22%	6%
バーチャルリアリティヘッドセット	11%	5%	4%	2%	6%	4%	5%	6%
テレビに接続する動画ストリーミング端末	32%	27%	23.8%	10%	28%	20%	33%	36.4%
音声アシスタント搭載スピーカー、またはスマートスピーカー	40%	16%	5.2%	6%	29%	16%	18%	10.6%
スマート家電	32%	11%	6.6%	4%	6%	6%	7%	7.2%
家庭用スマートビデオ監視カメラまたはスマートドアホン	33%	14%	6.3%	2%	8%	6%	10%	16.6%

N = 中国：2,000、イタリア：2,000、フィンランド：499（全回答者半数）、日本：2000、UK：4009、ドイツ：2000、オーストラリア：2000、スウェーデン：998（全回答者半数）

注：18-75歳の回答者、ドイツのVRヘッドセットは段階別バージョンも含む数字。

NEWS

■英国の日立製車両に亀裂 (日経 XTECH 2021.05.10 抜粋)

英国で複数の高速鉄道会社が採用する日立製作所の車両「クラス 800」で、一部に亀裂が見つかり、週末の運行が混乱した。

英国で日立の高速車両は信頼性が高い。2012～13 年には 122 編成 866 車両を製造して 27 年半にわたって保守する大型プロジェクトを受注した。

日立は、亀裂が生じた場所は「車体下部にある「リフティングポイント」と呼ばれるアルミニウム合金製部品」と説明している。リフティングポイントは車両の点検などの際、車両保守基地で車体を持ち上げて台車から外す時などに使われ、運行時には使用されない部品という。



■ニュースな言葉【ニューノーマル (新常態)】

新たな状態や常識を指す用語で、構造的な変化が避けられない状態を指す。初めてニューノーマルという言葉が用いられたとされているのは、世界中にネットが普及した 2000 年代初頭で、ネット社会が到来したことによりこれまでのビジネスモデルや経済理論が通用しなくなるという、投資家ロジャー・マクナミー氏によるもの。そしてリーマンショック後の 2009 年、エコノミストであるモハメド・エラリアン氏が著書内で第 2 のニューノーマルだと提唱。また 2014 年中国では、習近平国家主席が中国は「新常態」に入りつつあると述べたことから、これがニューノーマルに相当するとして話題になった。そして現在、2020 年に新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大したことで、第 3 のニューノーマル時代が到来したとする説が世界中で叫ばれている。

■シビル NPO 連携プラットフォーム (CNCP) が会報 第 85 号 を発行

◇オピニオン 新たな土木市場を拓く (その 2) モノ経済からコト経済へ

◇コラム 2020 高専インフラテクコン交流会

◇コラム わかりやすい土木第 12 回 防災の話 ハザードマップ

◇フレンズコーナー 東京隅田川 勝鬃橋の下に広がる大空間

◇フレンズコーナー 土木と市民をつなぐフォーラムの始動

* 詳細は CNCP 事務局にお尋ねください。

Email: info@npo-cnep.org HP: <http://npo-cnep.org>

■最近の気になるニュース 岩井有人さん (JR 東日本) の Facebook より抜粋

- ・米鉄道の巨額買収合戦、カナディアン・ナショナルに軍配 (05.15)
- ・JR 東、駅ナカに「野菜工場」新興勢も節電節水競う (05.05)
- ・踏切外の横断、全国 1.7 万カ所、国交省調査 (05.04)
- ・高速道、渋滞緩和へ変動料金制、首都圏などで国交省検討 (04.27)
- ・中途採用 10 年ぶり伸び、DX 人材底上げ (04.19)

今月の国際比較データ

① 主要国の経済規模（GDPシェア）の予想推移

出典：週刊東洋経済 2021.05.1-8

主要国の GDP(国内総生産)シェア予想推移は衝撃的だ。50 年にはインドも米国を抜き、日本はインドネシアやブラジルなどの後塵を拝することになりそうだ。人口減少を不安視される先進国を尻目に、アジアとアフリカは人口が膨らみ、50 年には両地域で世界の 8 割近くを占めるようになりそうだ。

◆ 2030年には中国がトップ、日本は4位に後退 —主要国の経済規模（GDPシェア）の予想推移—

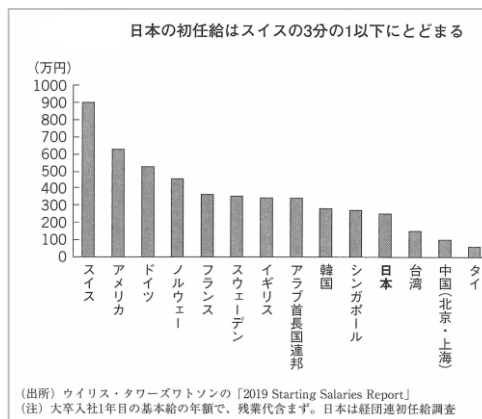
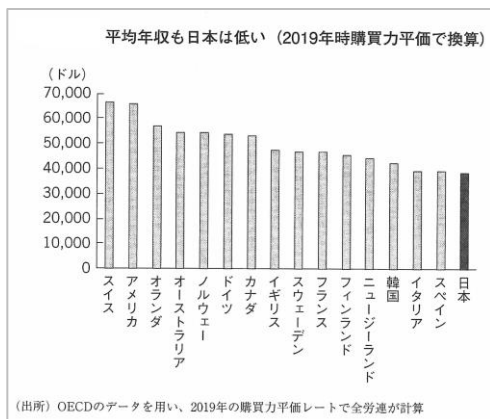
2000年	2010年	2019年	2030年	2050年
1 米国 30.2%	1 米国 22.7%	1 米国 24.5%	1 中国 23.7%	1 中国 25.5%
2 日本 14.4%	2 中国 9.1%	2 中国 16.8%	2 米国 20.2%	2 インド 20.0%
3 ドイツ 5.7%	3 日本 8.6%	3 日本 5.8%	3 インド 10.0%	3 米国 18.8%
4 英国 4.9%	4 ドイツ 5.1%	4 ドイツ 4.4%	4 日本 4.4%	4 インドネシア 5.4%
5 フランス 4.0%	5 フランス 4.0%	5 インド 3.3%	5 インドネシア 4.0%	5 ブラジル 4.3%
6 中国 3.6%	6 英国 3.7%	6 英国 3.2%	6 ブラジル 3.6%	6 メキシコ 3.6%
13 インド 1.4%	9 インド 2.6%	7 フランス 3.1%	7 ロシア 3.5%	7 日本 3.5%

(出所) 2000年、10年、19年はIMF統計(実績)、30年、50年はOECDや各種シンクタンクの予想資料を基に本誌作成

② 平均年収・初任給

出典：安いニッポン 中藤 玲著 日経プレミアシリーズ

2019 年の平均賃金(年収)を、同年のアメリカドルを基準とした購買力平価（PPP）を使って比較すると、下表に示す通り日本の賃金は安い。またアメリカのコンサルティング会社の調査によると、世界の大半入社 1 年目の年額基本給は、調査した 14 か国中 4 番目に低い。



③ 世界各国の二輪車普及率（1台当たりの人口）

出典：日本自動車工業会

世界各国の二輪車普及率(1台当たり人口)

単位:人

年	国	普及率
2018	インドネシア	2
2014	マレーシア	3
2015	タイ	3
2014	ギリシャ	6
2018	イタリア	7
2014	スペイン	9
2014	スイス	10
2014	オーストリア	11
2018	日本	12
2018	ドイツ	13
2014	オランダ	14
2018	中国	21

注:日本は、3月現在

資料:国土交通省、総務省、ACEM、FAMI 等 世界人口資料:OECD、国連

世界各国/地域の二輪車保有台数

単位:台

年	国/地域	保有台数
2018	イタリア	8,720,733
2014	スペイン	5,033,209
2014	フランス	3,015,223
2014	イギリス	1,328,300
2014	オランダ	1,228,147
2014	スイス	852,567
2014	オーストリア	755,447
2014	ポーランド	1,311,184
2014	チェコ	1,016,978
2018	ドイツ	6,183,690
2014	ギリシャ	1,802,929
2014	マレーシア	11,734,527
2015	タイ	20,541,724
2018	台湾	13,835,520
2018	インドネシア	119,413,901
2018	中国	68,227,847
2018	日本	10,730,337
2018	フィリピン	7,101,194

資料:国土交通省、総務省、ACEM、FAMI 等

① 好循環のまちづくり 枝廣淳子著 岩波新書

どのまちづくりでも重要となるキーワードは、次の4つ。

- ① 地域資産の活用
- ② 地産地消
- ③ 自立
- ④ お金がまちに流れる

著者が経験した多数の実践例を用いて紹介しつつ、まちづくりの最初に取り掛かるべきポイント「ビジョン作り」や「構造の見える化」「変えるためのプロジェクト・チームづくり」を具体的に解説している。

未来は地域にしかないと言い切る著者が、本気で日本全国の地域を良くしようという気概が感じられる一冊。200ページ弱の文庫本で読みやすい。



② 週刊東洋経済 (2021.05.01—08) ベストブック 2021

東洋経済新報社

未来を知るための読書案内。紹介されている本は全部で200冊、新刊本ランキングのみではなく、過去に刊行された本が対象の名著ランキングも掲載。懐かしい本も選ばれており、数十年前の著者の慧眼に改めて驚かされる。

未来予測本、教養書、経済・経営書、ビジネス書、マンガといったジャンル別に掲載されており、経営者や学識経験者、市場関係者など各界の専門家、書店員の皆さんに推薦して頂き、推薦数の多い順にランキングしてある。



③ 二平方メートルの世界で (絵本) 文・前田海音 絵・はたこうしろう 小学館

病気のため学校を1年に30日以上休む小学生は全国に2万人以上。北海道の小学生が、自らの病気と向き合う日々を綴った作品が絵本に。著者の前田さんは、3歳の時に難病とされる脳の病気がみつき、年に数回、大学病院に入院し検査を受けている。

題名にある「二平方メートル」は入院中のベッドの広さで、食事をしたり遊んだり勉強したり、一日のほとんどを過ごす。この入院中の孤独感、病気と闘っている子ども達や家族への思いを、400字詰め原稿用紙10枚に綴った。作文は昨年春の「子どもノンフィクション文学賞」の最高賞に輝き、受賞作が出版社の目に留まり絵本として出版された。



事務局通信

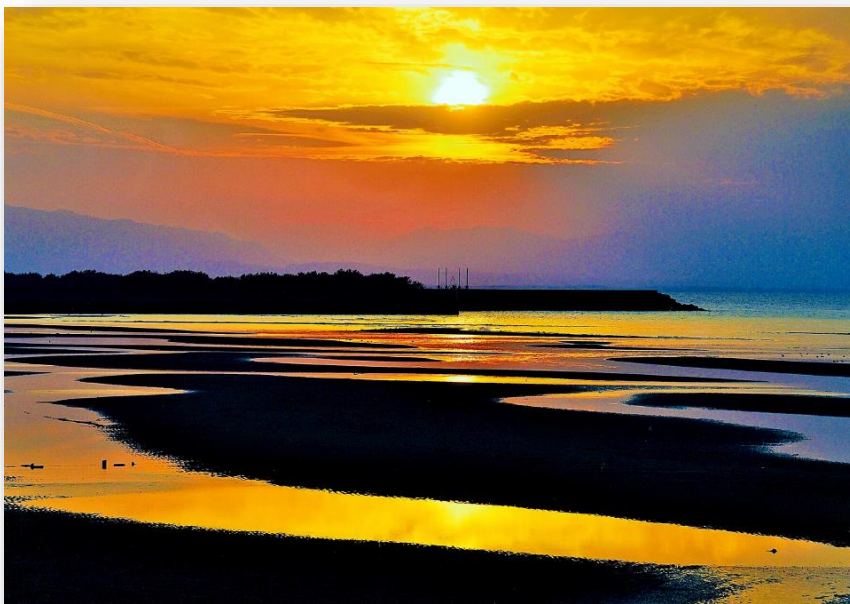
- ◆新旧会長の挨拶、いかがでしたでしょうか。未来構想 PF も発足から 11 年目を迎えています。
新体制のもと、インフォーマルな活動・交流を通じて、一緒に“未来のまち・交通・鉄道”を
構想してみませんか。
- ◆未来構想 PF の[ホームページ](https://miraikoso.or.jp/)をご覧ください。
会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HP としています。[未来構想 PF で検索](#)して
下さい。<https://miraikoso.or.jp/>

● 今月の写真コーナー ●

日本の“夕陽百選”にも選ばれている、国東半島の真玉海岸・干潟夕陽です。

真玉（またま）海岸は恋叶ロードの沿線上にあります。人気の夕陽の特徴と言えば干潟の縞模様と夕陽がおりなす光や色、影とのコントラストです。

夕日は晴れの日であれば見ることができますが、干潟が現れるのは干潮時刻の前後数時間のあいだ、つまり“干潮と日の入りが重なる日”しか見られません。運よく素晴らしい夕陽に出会えました。
(広島市在住 荒田尚美)



夕陽百選：NPO 法人日本列島夕陽と朝日の郷づくり協会が選定した、日本の夕陽の名所。

恋叶ロード：大分県豊後高田市の海岸線を走る国道 213 号沿いに、「縁結びの神様・粟神社」「夕陽の絶景スポット・真玉海岸」「花とアートの岬・長崎鼻」などロマンティックなスポットがあり、このスポットを結ぶ約 20 km のルートが“恋が叶う道”恋叶（こいかな）ロード。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 大口 電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28